

# サービスグラント 年次報告書

2022-2023



2022年4月1日-2023年3月31日

# サービスグラントのビジョンとミッション

## VISION 社会参加先進国へ

社会課題を前に、互いの立場や違いを尊重しながら、  
当たり前のように協働できる社会を目指して

## MISSION プロボノを進化させる

- Quality Pro Bono Everywhere -  
常に質の高いプロボノを行うためノウハウを蓄積する

- Do+Enable -  
他者との協働を通じて、プロボノの可能性を広げる

社会課題を前に、誰もが行動を起こすことのできる機会が、すぐそこにある。

多様なそれぞれが互いの違いを尊重し、可能性を活かしあいながら当たり前協働できる。

それが、私たちが考え、私たちが目指す、「社会参加先進国」です。

「プロボノ」は、社会課題解決に取り組む非営利組織の活動を躍進させる力として、またビジネスパーソン社会貢献手法として、着実に浸透してきています。サービスグラントが切り開き、これまでの実践を通じて培ってきたもの、それは単なる手段や手法ではありません。複数の主体が共通の目的のもとに協働し、成果を生み出すまでに、何が求められ、何が力となるのか。私たちの知見は、これらの普遍的な問いに対して常にアップデートされ続けています。

サッカーをする人が、ボールさえあれば誰とでもプレーを楽しめるように。

音楽を愛する人が、国を越えて歌い、語りあうように。

サービスグラントは、日本を、世界を、社会参加先進国にすることを目指し、挑戦を続けます。

## 私たちが取り組むプロボノ

### 1. 社会貢献活動の基盤強化

プロボノプロジェクトを通じて非営利組織(NPO)などの基盤強化に取り組み、多様な社会課題の解決を後押しします。

### 2. 企業と社会人の力をより広く発揮する

ビジネスとプロボノには相乗効果があります。プロボノは、社会課題解決に寄与するとともに、スキルの再認識やモチベーション向上にも効果を上げています。

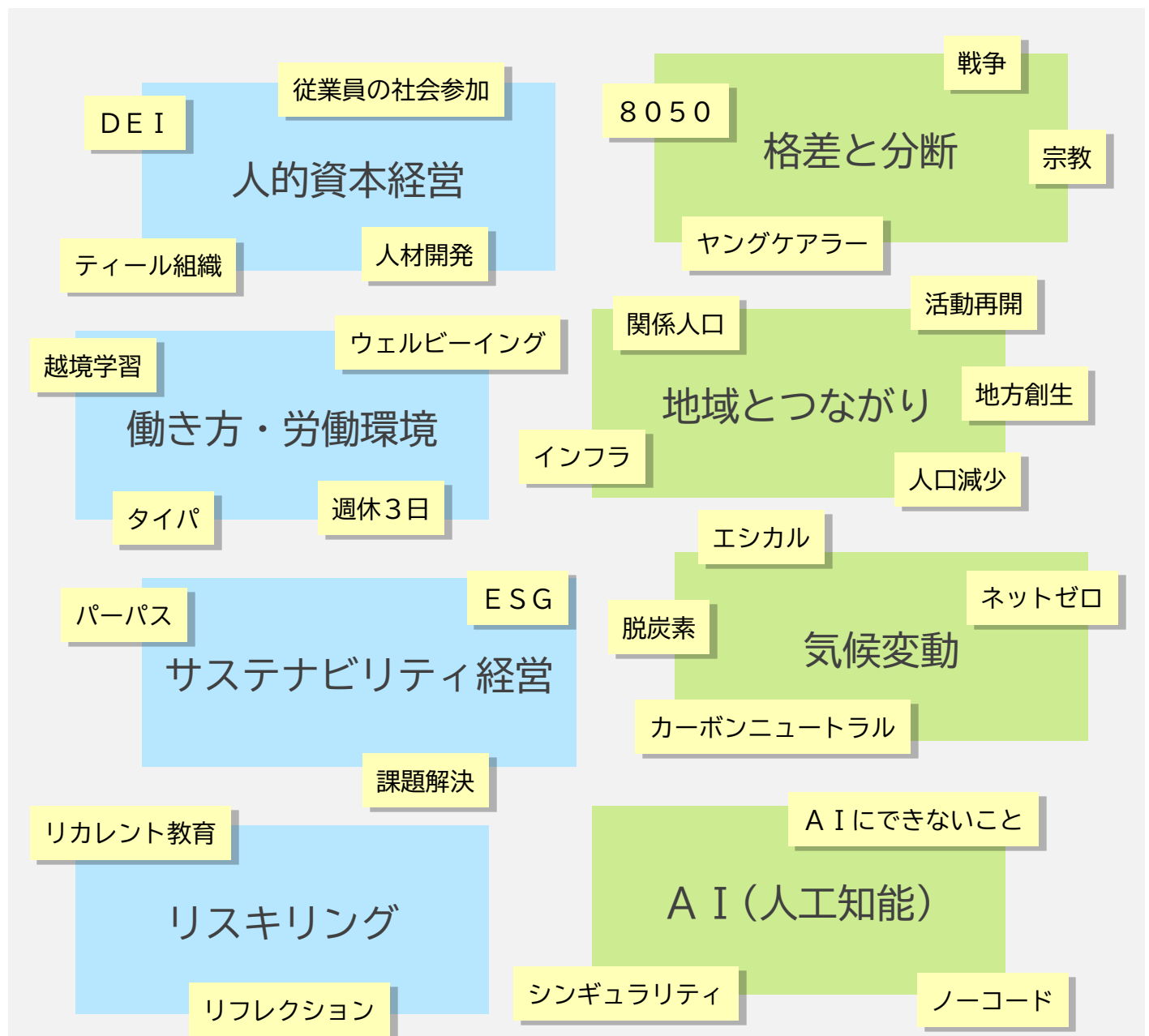
### 3. 誰もがあたりまえに参加できる地域・社会へ

プロボノを通じて、これまで関わることのなかった人同士が関わり、新たな発見を得ることで、地域・社会に対する視野を広げるとともに、参加するきっかけを提供しています。



# 2022年度の社会参加とプロボノ

サービスグラントスタッフの視点から見た、2022年度のキーワードをまとめてみました。



停滞していた社会活動が、少しずつ動き始めた2022年。

世界情勢は数多くの不安や分断の兆しを抱えながらも、一方で、オンライン化が広がり、技術革新が大きく進展した1年でもありました。サステナビリティやダイバーシティへの配慮、人的資本経営への注目など、企業をめぐる経営環境も刻々と変化しており、個々のビジネスパーソンの「社会感度」は高まり続けていると言ってよいでしょう。

一方、社会課題の現場では、人口減少や超高齢化、孤立・孤独などの根深い課題に直面しています。こうした困難な状況の中でも、限られたリソースの中で、新たなつながりを生み出し、社会のセーフティネットを紡ごうとする数々の動きが見られます。

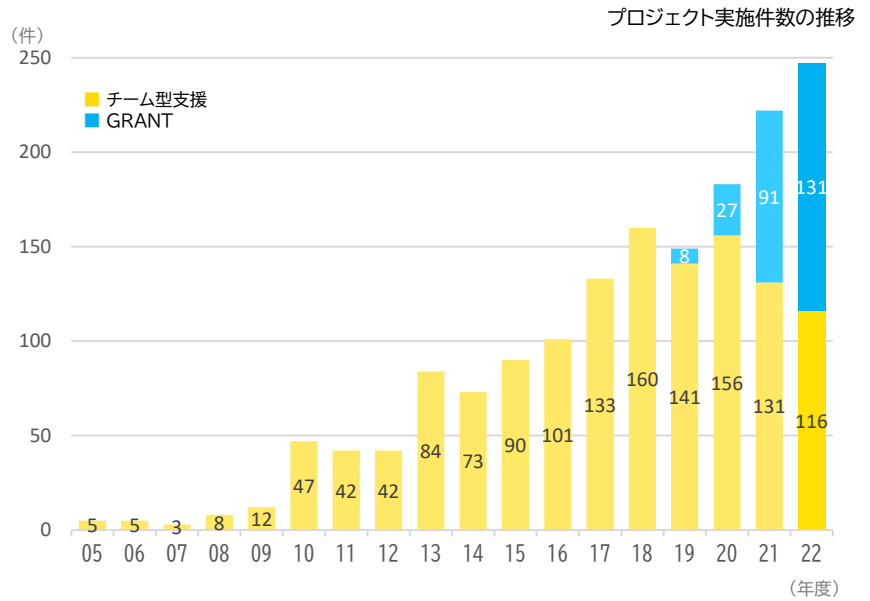
サービスグラントにとっての2022年度は、さまざまな地域やテーマにおいて社会のつながりを生み出す動きとともに歩む1年となりました。そうした実践の中から、これまでサービスグラントが培ってきたプロボノプロジェクトの運営手法を再確認するとともに、より一層の社会課題解決と新たな担い手の広がりを実現する仕掛けの必要性を感じる1年ともなりました。

「日本を、世界を、社会参加先進国にする」そんなサービスグラントのビジョンに向けた歩みは、これからも続きます。

# 数字で見るサービスグラント

## 年間247件のプロジェクトを実施

チーム型支援及びGRANTの総計



複数名のプロボノワーカーでチームを編成して行う「チーム型支援」で116件、社会参加プラットフォーム「GRANT」では131件、2022年度の1年間であわせて247件のプロボノプロジェクトを実施しました。NPOのニーズに対し、支援者とのスピーディーなマッチングの場を提供する「GRANT」の推進により、プロジェクト数は更に伸びています。

## 支援プログラムの例

本年度は下記以外にも、NPOで働く“人”に伴走するメンタリングプログラムや、支援者自らが社会課題の背景を紐解き、アクションする取り組みも実施しました。「GRANT」では、ニーズを細やかに切り取った個性的なプロジェクトが多く生まれています。

### 情報発信支援プログラム



ウェブサイトリニューアル設計  
ジンドゥー・Wixウェブサイト  
Facebook・SNS活用  
印刷物、映像

### 事業戦略支援プログラム



事業計画立案  
マーケティング基礎調査  
課題整理ワークショップ  
アンケート活用入門  
事業評価

### ファンドレイジング支援プログラム



営業資料  
寄付管理  
クラウドファンディング

### 業務改善支援プログラム



業務フロー設計  
活動運営マニュアル  
クラウドツール活用入門  
経理・税務改善

### チーム型支援のSDGs別実施件数 (2022年度)



特定の社会課題に対して集中的なアプローチを行うことのできる協働事業の牽引により、「健康と福祉」「まちづくり」の分野の支援が多数となっています。

これまでに企業21社

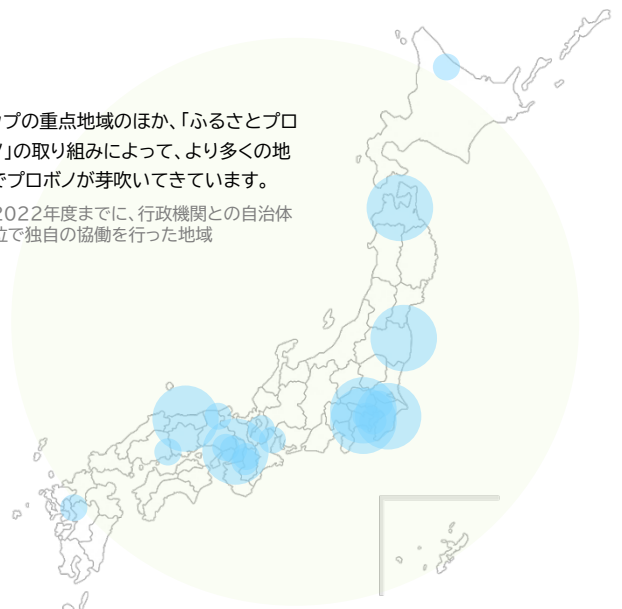
28の行政機関が

サービスグラントと協働で独自のプロボノプログラムを実施

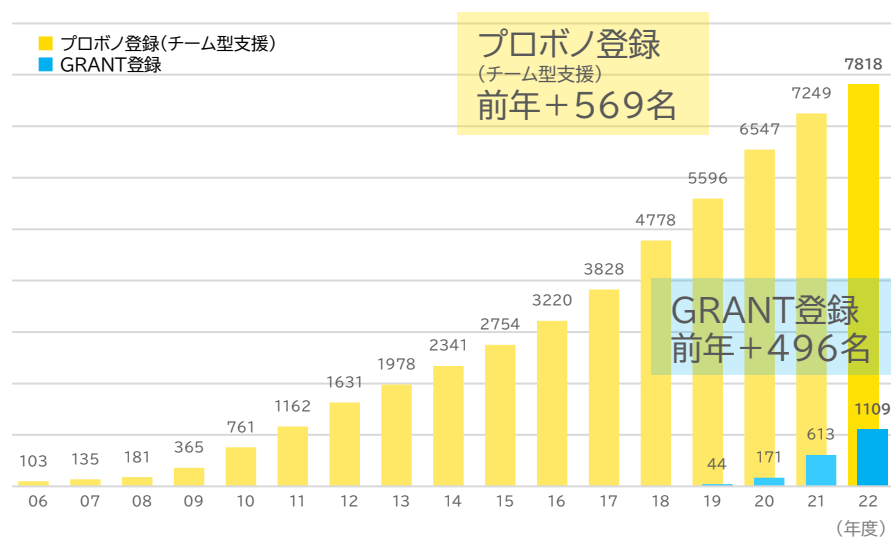
2022年度は、支援先NPOのニーズと各企業が取り組む社会貢献の方向性をふまえ、9社のプロボノプログラム運営をサポートしました。また、全国10を超える行政機関、中間支援組織と協働し、社会参加による課題解決に向けて、地域の特色を活かしながら、長期的な広がりを持つプロジェクトを実施しました。

マップの重点地域のほか、「ふるさとプロボノ」の取り組みによって、より多くの地域でプロボノが芽吹いてきています。

※2022年度までに、行政機関との自治体単位で独自の協働を行った地域



登録者の推移 (一部登録外プロジェクト参加者を除く)



累計7,818名が  
プロボノ登録(チーム型支援)

\*GRANT登録は累計1,109名

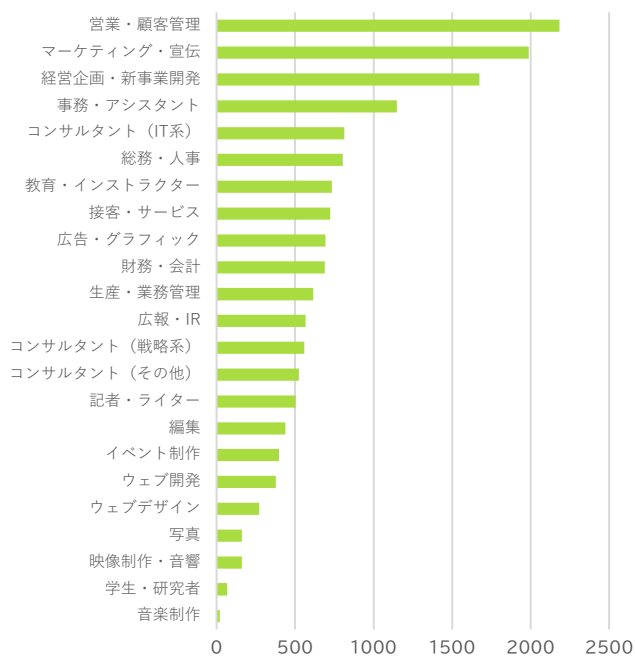


活動開始から18年、チーム型支援での参加者実数は約5,300人を超え、マッチングプラットフォーム「GRANT」も大きく成長しています。サービスグラントでのプロボノに、ライフワークとして長年参加を継続している方も増えているほか、

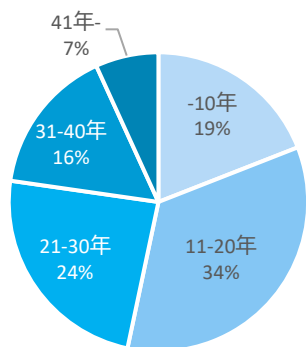
- 「自社で社会課題解決に関する事業をはじめました」
- 「独立して事業を立ち上げました」
- 「支援先NPOの理事になりました」
- 「関係人口として、地域への関わりを継続しています」
- 「スタッフとして団体の活動に継続的に参加しています」

など、プロボノをきっかけにしたライフキャリア変容のエピソードは、参加者から毎年数多く届いています。また、NPOからも、新たな仲間を得た感謝の声が寄せられています。

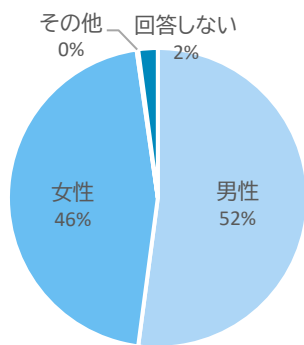
プロボノ登録者(チーム型支援) 職種別登録者数  
～2022年度累計 ※複数回答



## 職種・年齢ともに 幅広い社会人がプロボノに意欲的



社会人年数の比率  
2022年度プロボノ登録者(チーム型支援)



性別の比率  
2022年度プロボノ登録者(チーム型支援)

若い世代での社会課題への関心、プレシニア・シニア世代の社会参加意識の高まりに伴い、登録者における社会人経験年数の割合は年々差が縮まりつつあります。性別については、プロボノへの参加意欲を持つ新規登録者としてはわずかに差がありますが、近年プロボノプロジェクトにおける女性マネジャーの割合は高まってきています。

登録者の職種に関しては、上図に記載の職種にとどまらず、「GRANT」においてはさらに幅広く、専門性の高いスキルによるマッチングが見受けられています。

# サービスグラントのプロボノプログラム

チーム型支援 | 社会課題解決に取り組むNPOの基盤強化のため、多様な人材が集結

2022年度は116件のチーム型支援(サービスグラントが提供するプログラムを基準とし、個別に編成したチームによって支援するプロジェクト)を実施しました。支援先団体・参加者双方からの高い満足度を維持するだけでなく、本プロジェクト参加を通じて、社会課題に対し実行力のある人材を育成するための取り組みにも注力しています。



支援先満足度 **99%**

参加者満足度 **98%**

※2022年度支援先団体・参加者へのアンケート調査より、「とてもよかった」「よかった」、「とてもよい印象を持っている」「よい印象をもっている」と回答した割合

## 主なプログラム

### ・長期チーム型プログラム

課題の背景や団体の現状理解をしっかりと行い、長期的な活動基盤強化につながる成果物を3~6カ月かけて作成します。

### ・ママボノ mamabono

育休中などで復職を目指している子育て女性のチームで取り組むプログラム。2013年度の開始から10年目を迎え、累計100団体を支援してきました。本年度は64名が参加、これまでに累計646名が参加し、支援先に寄り添ったプロジェクトを実施しました。



### ・短期チーム型プログラム

1日~2カ月の短期集中型で、各種調査提案や課題整理、情報発信ツールなどの成果物提供にチャレンジします。

### ・スコーパソン

短時間で団体の運営課題解決への道りを言語化することに取り組む「スコーパソン」は、プロボノワーカーと団体での協働を体験するとともに、課題整理の手ごたえを感じられる、プロボノの入門的なプログラムとして確実なニーズを得ています。

**646人が**  
ママボノで復職に向けて  
ウォーミングアップ

※2013~2021年度  
ママボノ参加者

ママボノを  
勧めたい  
**98.1%**

視野が広がった、  
人間的な成長に  
つながった  
**98.7%**

**44団体が**  
スコーパソンで  
課題を整理し、  
次の一歩へ

※2021~2022年度の累計



## チーム型支援の特徴

プロジェクトの参加に立候補したプロボノワーカー複数名でチームを組み、サービスグラントの提供する進行ガイドなどをもとに団体特性に合わせてアレンジしながら、NPOの基盤強化につながる具体的な成果物を提供します。



多様性のあるチーム  
役割の異なる5人前後のチーム



仕事と両立可能な時間・期間  
週3-5時間(主に平日夜・週末) × 1-6カ月



明確なゴールに向けて伴走  
成果物提供までの道りをサポート

# GRANT | 今すぐ、どこからでも使える社会参加プラットフォーム

支援を求める団体と、経験や得意なことを活かしてみたい個人をつなぐ、社会参加プラットフォーム「GRANT」。全国各地の中間支援組織によるコーディネート機能を支援する仕組みが高く評価され、「GRANT」は2022年度グッドデザイン賞を受賞しました。



年間で**131**件が完了  
(114のプロジェクトおよび、17のオンラインセッション)

**97**人が支援活動に参加

※2022年4月～2023年3月



GOOD DESIGN

<https://grant.community/>



## 団体

チラシ・パンフレット制作、動画編集、SNSアカウント作成等々、多様なニーズをプロジェクトとして発信しています。



登録団体 **369**団体

## 参加者

ICT、SNS、WEBディレクション、経理、チラシ作成等々、多彩な経験や得意分野を持った参加者が活躍しています。



参加登録 **1109**人

## コーディネーター

地域や分野別に、団体とのネットワークを持つ「中間支援組織」が、団体の支援ニーズと参加者の橋渡しを担います。



コーディネーター **64**団体

※登録数は2023年3月31日までの累計

支援先満足度 **4.9**ポイント

参加者満足度 **4.6**ポイント

※「大変満足」を5ポイントとしたプロジェクト完了者アンケートの平均(2023年3月まで)

## GRANT の特徴

社会参加に関心のある個人が気軽に参加でき、かつ、NPO・地域団体にとって負荷の少ない形で、新たな社会貢献のカタチを実現。全国の中間支援組織と連携しながら、各地で地域づくりや課題解決を推進しています。



個人と団体をマッチング  
チームを組んでの参加も可能



いつでも、いくつでも  
最短1日～3カ月程度の短期



オンライン上で管理  
明確なゴールとアクション

# 2022年度の新たな取り組み

## ソーシャルアクションアカデミー

### 社会課題解決への挑戦とビジネススキルを磨く超実践型プログラム

NPOとビジネスパーソン、各種専門家・研究者が領域を超えた協働を行い、社会課題解決に挑戦するプログラム『ソーシャルアクションアカデミー』。3期目にあたる2022年度は、本アカデミーに2つの学科を設置し、「子ども・若者をめぐる社会課題」をテーマに約半年間のプログラムを開講しました。



## ソーシャルアクション学科

### 社会課題に働きかける具体的なアクションを企画・実践

NPO法人日本子ども支援協会、NPO法人ピルコン、認定NPO法人ブリッジフォースマイル、NPO法人BONDプロジェクトの4団体とともに、8月から約半年、29名の参加者が、人々の意識・行動に変化を起こすアクションの企画・実行にチャレンジしました。マーケティングやプロデュースの視点から、岡本佳美さん(株式会社アム 代表取締役)、小国士郎さん(株式会社小国士朗事務所 代表取締役/プロデューサー)のアドバイスを得ながら、5つのプロジェクトに取り組みました。



#### ソーシャルアクション プロジェクト

- いざって時の対話術ゼミ in 吹田市
- Sail to the Seven Seas 海の職業体験プログラム
- ドロカル 徒歩15分圏内特化型カードゲーム
- Furelute (触れる手)
- もったいないからありがとう リユース家電で自立応援



▲成果報告レポート

## ソーシャルリサーチ学科

### 社会課題の可視化・構造化に取り組む社会調査を企画・実行

一般社団法人全国フードバンク推進協議会、NPO法人パディチーム、一般社団法人びじっと・離婚と子ども問題支援センターの3団体とともに、27名の参加者が、「フードバンク」「養育困難家庭の訪問型支援」「面会交流」の3テーマをめぐる6件の社会調査を行いました。社会科学の研究者や非営利組織のリーダーによる理論・実践両面からの講義を受けるとともに、スタディツアーやインタビュー、アンケート調査によるデータ収集を重ねながら、社会課題の可視化と分析に挑戦。その調査結果をレポートとして公開しています。



#### ソーシャルリサーチ プロジェクト

##### 【フードバンク】

- フードバンク運営における、広報活動の役割と重要性を明らかにする為の調査
- フードバンクを通じた生活困窮者などへの支援に係る企業の取組みに対する調査
- 物価高の影響も含めたフードバンク団体の最新実態、および補助金・助成金申請やウェブサイトの改善のための各種調査



▲調査レポート

##### 【養育困難家庭の訪問型支援】

- 訪問支援が必要な家庭への支援者に関する現状・意識調査
- パディチーム財務改善による事業拡大のための施策検討



▲調査レポート

##### 【面会交流】

- 「面会交流」について名称が与える影響と重要性に関する調査



▲調査レポート



# 国内外での連携

## さわやか福祉財団

### 生活支援コーディネーターに向けた冊子を作成・発行

さわやか福祉財団・東京都健康長寿医療センター研究所との協働により、現役勤労者が地域の助け合い活動に参加するためのポイントを抽出する研究に取り組みました。2021年度に東京都八王子市にて行った社会実装の成果を踏まえ、生活支援コーディネーター向け冊子「地域の助け合い活動と現役勤労者をつなげる7つのポイント」を作成しました。冊子の内容は、財団主催の「いきがい・助け合いサミット」(2022年9月開催)にて報告し、現在も財団にて全国各地に配布しています。財団HPからもダウンロードできます。



## 日本赤十字社

### 奉仕団活動に関する基礎調査をもとにモデル事業へ

日本赤十字社では、長期ビジョンの一環として、「赤十字奉仕団等ボランティア主体の活動の拡充」を重要テーマとして掲げています。全国におよそ85万人を数える日本赤十字社の奉仕団等ボランティアによる活動を活性化するためのヒントを探るため、2022年度は複数の支部や奉仕団員へのインタビュー調査を行いました。調査結果は報告書や手引きなどの成果物にまとめるとともに、2023年度は、調査から得られた示唆をもとに、課題解決や新たな担い手の拡大につながるモデル事業の実施へとつなげていきます。



## 公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会

### 障害者スポーツ団体の基盤強化を支援

東京都域を統括する障害者スポーツ競技団体に対し、プロボノプロジェクトを実施しています。本年度は東京都身体障害者アーチェリー協会に対して、業務フロー設計の支援を行い、業務の見える化及び改善を提案しました。また、東京ボッチャ協会に対して、課題整理を支援し、団体の組織基盤強化につながる提案を行いました。



## 一般財団法人 日本民間公益活動連携機構(JANPIA)

### 休眠預金活用事業の助成先×企業プロボノを促進

一般財団法人日本民間公益活動連携機構(JANPIA)が主催する、2021年度マッチング会の成果報告会と企業向けに開催したSDGs達成に貢献するボランティア・プロボノセミナーに登壇しました。また、休眠預金活用事業の助成先団体に対して、ボランティア・プロボノ基礎講座を実施し、資金分配団体8団体、実行団体10団体、経団連企業など13社が、連携に向けて対話を行うマッチング会の実施に協力しました。

## インナープロジェクト

### プロボノワーカー主体で推進する新たなプロボノ活動が継続

サービスグラントのミッション実現に向けて、3つのプロジェクトを実施。プロボノグループ『デジボノ』はデジタル活用の悩みを抱えるNPOに対し、課題を整理から、実際の支援まで一気通貫でサポート。プロボノワーカー12名が年間9件の支援を行い、活動を継続しています。『大人の社会科見学Online』には企画メンバー17名で実施した10回のイベントに累計338人が参加。毎回テーマを変えて“知っているようで実は知らない社会課題”について学びました。サービスグラントに集まる人や知見をつなげることにチャレンジした『コミュニティ・メディア立ち上げ』プロジェクトからは、プロボノワーカーへの調査・提案を踏まえた新たなプラットフォーム「Pro Bono Place」が立ち上がっています。



# 企業とプロボノ

企業で働く人々が、社会課題のリアリティに直接触れ、ソーシャルセクターとの協働やパートナーシップを通じて社会感度を高めるとともに、課題解決力を発揮できる場として、企業に向けたプログラムを提案しています。具体的には、プロジェクト立ち上げと運営、自走化に向けたサポートを提供しています。

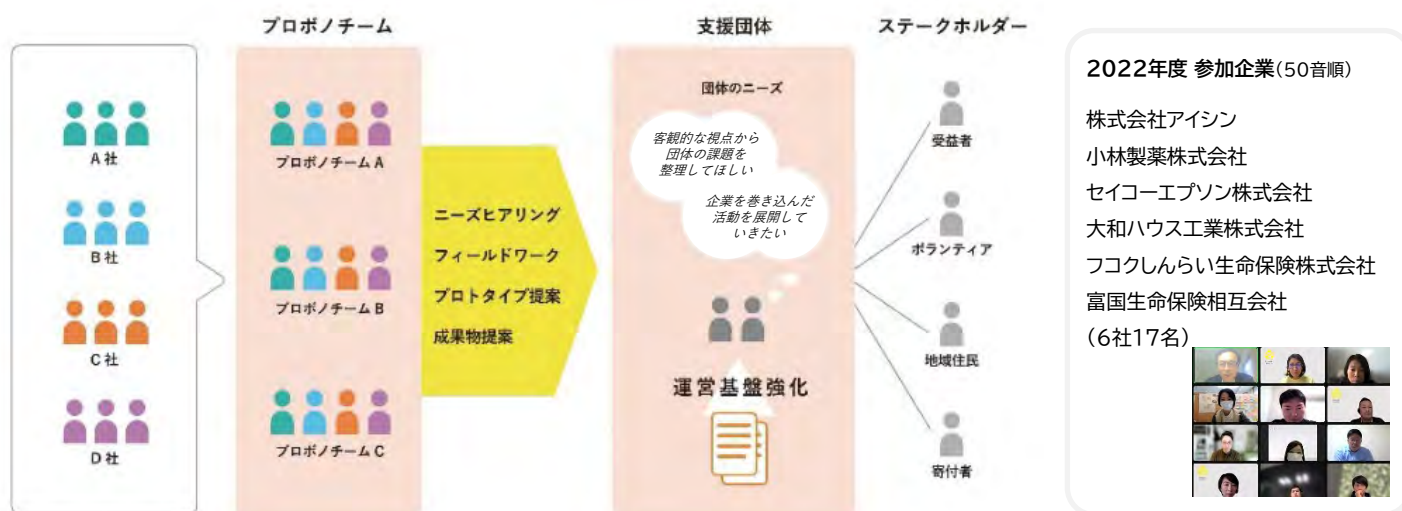
## 社会課題解決型人材育成プログラム | プロボノリーグ

リアルな課題に対して、初めて顔を合わせたメンバーで、ビジネススキルを活用し成果を出す「プロボノリーグ」は、社会課題を題材にした実践型の人材育成・越境学習プログラムです。プロボノ経験に加え、個人の価値観やマーケットバリューを知り、プログラムの前後での変化を認知するセッションやフィードバックの機会も折り込んでいます。

参加企業 **31社**

参加者 **181名**

※2016年度～2022年度



2022年度 参加企業 (50音順)

- 株式会社アイシン
  - 小林製菓株式会社
  - セイコーエプソン株式会社
  - 大和ハウス工業株式会社
  - フコクしんらい生命保険株式会社
  - 富国生命保険相互会社
- (6社17名)

### 支援先1：認定NPO法人スマイルオブキッズ

「愛する子ども達のために」という理念のもと、病気や障害のあるお子さんとその家族の立場に立って、支援活動を行う団体。プロジェクトでは、課題である「安定的な運営資金の確保」に対し、地域企業に向けた団体紹介資料と地域住民へ向けたチラシを作成。アタックリストも提供しました。



### 支援先2：シトラスパーク瀬戸田

全国有数の柑橘の産地の観光施設として1998年に開園。一時休園を経て2022年に再出発した施設。プロジェクトでは、「地域と施設の活性化」という課題に対し、施設の活用案、周知や集客の施策、サービス品質を維持しながら業務内容を整理し効率化する施策を提供しました。



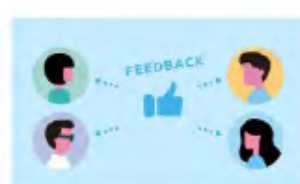
## プロボノリーグの特徴



具体的な成果をNPOに提供する  
アクションラーニング



切磋琢磨し、自己発見につながる  
異業種混合チーム



学びを職場に活かす  
客観的・定量的フィードバック

参加者は自身の価値観の言語化、目標設定を行った後、プロジェクトに臨みます。社会セクター基礎講座での学びを基に、実際に非営利組織が直面する数多くの課題のなかから自ら課題を選び取り、支援内容の企画提案から実行までのプロセスをアクションラーニング形式で経験します。終了時には、参加者一人ひとりが、他者からの客観的かつ定量的なフィードバックを得て職場に持ち帰ります。

## 企業協働プログラム | 企業の特徴に合わせた社会貢献/人材研修プログラム

プロボノ参加者は、職業上のスキルや経験を活かして社会課題解決の直接的な担い手となることで、社会貢献の手ごたえを得ることができます。また、同じ企業内のメンバーながらも部署の垣根を超えた人々とプロボノプロジェクトを協働推進することは、それぞれのスキルの再認識、知見の共有、仕事へのモチベーションの向上に寄与します。各企業の重点領域に則した支援先を社員のスキルを用いて支援することによって、自社の社会的価値を再認識する機会にもなり、社員のエンゲージメント促進へとつながっています。

## 協働企業21社

※2016年度～2022年度



### Panasonic NPO/NGO サポートプロボノプログラム

パナソニックグループ

2022年度は、福島復興支援、フェアトレードの普及、子どもの遊び、女性支援、環境保全など、サポートファンドの助成先を含む5団体の支援に計34名が参加。営業資料作成や事業計画立案などのプロジェクトを実施しました。10年以上にわたって従業員とともにプロボノに取り組み、NPO/NGOの組織基盤強化を応援してきたことも評価され「第20回企業フィランソपी大賞」を受賞しました。開始から12年で参加者数は累計372名。さらなる拡大を目指します。



### 日立企業プロボノ

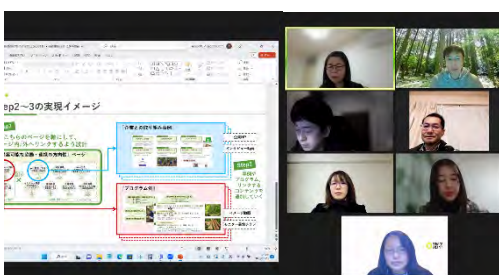
日立グループ

本業での知見や経験を生かした社会課題の解決を目指し、2.5カ月間で、4～5名のチームでのプロボノ活動に取り組んでいます。2022年度は、困窮子育て家庭の支援、難病の患者支援などを行う4団体を対象に、業務フロー整理やデータベースの要件定義などのプロジェクトを実施しました。また、社員がプロボノに興味を持つきっかけ作りとして3時間で団体の課題整理と解決策の提案を行うプロボノエントリー施策を初めて実施しました。

### 住友商事 教育支援プロボノ

住友商事株式会社

社会貢献活動プログラム「100SEED」の一環として、教育課題に取り組むNPOを支援しています。2022年度は、上期・下期で計22名の社員が、6団体に対して営業資料作成などのプロボノ支援を実施しました。また、3時間のオンラインスタディツアーでは、現場からの中継で団体の活動の様子をイメージした後に課題解決に向けた検討と提案を実施。参加者からは「臨場感があってよかった」などの感想がありました。



### NTTドコモ プロボノプロジェクト

株式会社NTTドコモ

「サステナブルな社会創造に向けて、自社の強みであるICT技術や多様な人財の活用を通じて社会課題解決を実践する施策」としてプロボノ活動を実施しました。森づくりを行う団体など3団体を3カ月間支援し、社員からは自身のスキルの再確認や自己成長に繋がった、社会課題やNPO団体に対する考え方が変わったなどの声が上がりました。



## SMBCグループ 10年振り返りアンケート調査

株式会社三井住友フィナンシャルグループ

株式会社三井住友銀行は、邦銀初の取り組みとして2011年度からプロボノプロジェクトを開始しました。2014年度からは、三井住友銀行を含むSMBCグループ各社の役職員を対象を広げてグループ横断型のプロジェクトを展開してきました。2022年度は、10年を超える実績を振り返り今後のプロジェクトの発展に活かすべく、過去支援先団体と参加者に、プロボノプロジェクトによるその後の変化や成果についてのアンケート調査を実施しました。

## 日興プロボノワーク

SMBC日興証券株式会社

2020年度より社員が業務時間の一部(上限20%、週7.5時間以内)を用いて社会課題解決に貢献できるプロボノ活動をスタート。3年目となる2022年度は1期(6カ月)、4団体の支援に取り組み、31名の社員が参加しました。サービスグラントは本プログラムにアドバイザーとして関わり、後方からの支援を行いました。



## SAPジャパン プロボノプログラム

SAPジャパン株式会社

社員一人ひとりが、主体性を持ってCSR活動に参画する企業文化を醸成するための「CSR for Everyone」活動の一つとして、SAPジャパンプロボノプログラムを2021年度よりスタートしました。2年目となる2022年度は、多様な職種、年齢層から集まった18名の社員が、3団体に対して、同社の専門性を活かしながら、さまざまな課題解決に取り組みました。

## Twitter Japan Pro Bono プログラム

Twitter Japan株式会社

非営利組織における、Twitterによる情報発信の基盤強化を支援するため、2021年度よりプロボノ活動を開始。2年目となる2022年度は、社員24名が参加して、13団体を対象にTwitterの活用に関するセミナー及び個別サポートを実施しました。また、そのうちの4団体に対しては、約2カ月間、個別の課題解決にもつなげる伴走支援を継続して実施しました。



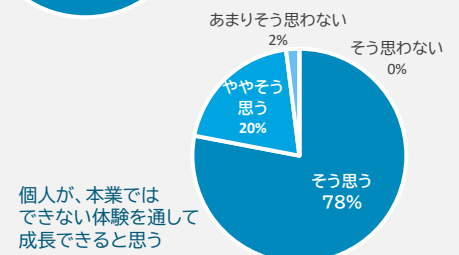
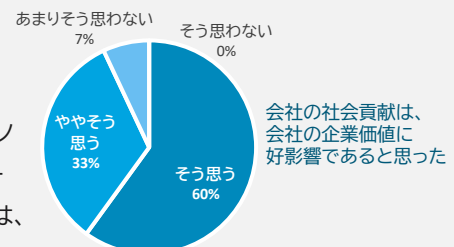
## 企業内プロボノ導入企業 8社横断意識調査を実施

2021年度から2022年度にかけて、津田塾大学・神戸大学と協働で、企業内プロボノ導入企業8社への調査を実施しました。企業内プロボノ参加者240名超へのアンケート、50名以上のインタビューによる国内初の企業横断調査となりました。結果としては、**個人として企業が社会貢献することの重要性を理解できた**と9割以上が回答。また、**本業ではできない体験を通して成長できると**98%が回答しました。

詳細は、企業のプロボノ推進担当者の方々からの手ごたえと実感に関する事例紹介と合わせて、レポートにてご覧ください。



▲調査レポート



# 地域とプロボノ

大都市における本格的な超高齢社会の到来、地域社会における急速な人口減少。社会構造が大きく変化するなかで、住民主体の地域づくりと多様な主体の社会参加の推進は全国共通のテーマです。

サービスグラントでは、仕事の経験・スキルを活かして地域団体・NPOなどを支援する「プロボノ」を軸としながら、その実践を通じて培ったコーディネーションノウハウを活かし、行政と住民の本質的な「協働」のあり方を模索し続けています。

## 28の自治体・機関と協働

※2016年度～2022年年度

### 地域包括ケアシステムの構築に向けて

団塊の世代が75歳以上となる2025年が間近に迫り、更なる医療や介護の需要増加が見込まれています。そのような中、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもと、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるまちづくりに向けて推進されているのが、「地域包括ケアシステム」の構築です。この包括的な支援・サービスの提供体制整備において、地域活動の強化や新たな活動の創出を支援するにあたり、プロボノの力は欠かせないものとなってきています。多様な主体との協働を、地域に根付かせるため、今、各地で多様な取り組みが広がっています。



### 東京ホームタウンプロジェクト

東京都 福祉保健局 高齢社会対策部 在宅支援課

8年目を迎えた2022年度は、より広く地域づくりに多様な主体との協働を根付かせることを目指し、行政職員・生活支援コーディネーターなどに向けた新たな研修を加えながら、中間支援機関の伴走のもとで8の地域・団体・NPOへプロボノ支援を実施。また、新たな活動づくりなどにも取り組みました。年度総括イベントには延べ715名が参加し、地域づくりの将来像について、さまざまな視点から意見交換がなされました。



### 大阪ええまちプロジェクト

大阪府 福祉部 高齢介護室 介護支援課

2022年度は、高齢者を含む地域の多様な方々で支え合い・助け合いの活動をする団体を、13プロジェクト・延べ62名のプロボノワーカーの参加で支援しました。広報物の支援では、団体が今後も更新し続けられるよう、誰でも無料から使えるデザインツールCanva(キャンバ)を用いました。また、府内2市町(和泉市・豊能町)に対しては、「GRANT」を活用して、地域団体とプロボノ人材とのマッチングを伴走支援しました。



### ハマボノ(ヨコハマプロボノ)

横浜市 健康福祉局 地域包括ケア推進課

全国に先駆けて地域包括ケアに取り組んできた横浜市が、2019年度に開始。地域包括ケアを推進する地域活動団体を支援先とし、プロボノワーカーとして働き盛り世代からシニア世代までの主に市民が参加しています。また、地域ケアプラザなどの担当者がハマボノの支援者として関わっています。2022年度はチーム型プロジェクト「ハマボノ」を約4カ月間で8件実施し、43人のプロボノワーカーが参加。個人による支援「ハマボノmini」も6プロジェクトのマッチングが成立しました。

## 新たな担い手と協働した地域づくり

町会・自治会などの地縁型組織においては、担い手不足や高齢化などにより、十分に地域の課題に対応できないケースがある一方で、幅広い世代を巻き込みながら、工夫を凝らしてユニークな取り組みに挑戦し、新たな可能性を示す事例も生まれています。町会・自治会などの基盤強化支援によって、風通しのいい活動づくりを応援するプロボノプロジェクトや、ちょっとした困りごとに対し新たな担い手をマッチングする取り組みを進めています。



### 地域の課題解決プロボノプロジェクト／まちの腕きき掲示板

公益財団法人 東京都つながり創生財団

東京都内の町会・自治会をプロボノにより支援。「地域の課題解決プロボノプロジェクト」では、5団体の運営基盤強化にむけたチーム型支援と、ホームページ立ち上げをきっかけに情報発信に取り組みたい4団体への伴走支援を実施。町会・自治会のちょっとした困りごとを個人のプロボノワーカー＝“腕きき”がサポートするオンラインマッチング「まちの腕きき掲示板」では、八王子市・清瀬市・稲城市にてマッチングの取り組みを支援しました。

## 多様な主体の参加で人口減少に挑む

人口減少が進む地域社会においては、県民総参加による地域づくりや、関係人口とのつながり拡大に向けた取り組みが進んでいます。プロボノプロジェクトでは、地域内外の社会人が、地域に根づくユニークな活動や課題解決に取り組むNPOなどに対し、その活動の発信力や波及効果を高め、成果を高めることに挑んでいます。地域の人々の話を傾聴したり、活動を体験したりしながら、実効性のある提案を行うとともに、地域への共感や関わりを深めています。



### 青森プロボノチャレンジ

青森県 環境生活部 県民生活文化課

「青森県型地域共生社会」に向けて、安心して暮らせる地域づくりに取り組む青森県内のNPO・地域団体を、プロボノワーカーが支援しました。さらに、首都圏在住のプロボノワーカーが「ふるさとプロボノ」として参加する取り組みが2020年度から加わり、青森県在住・首都圏在住のワーカーがワンチームとなって県内5団体の支援に取り組みました。

### ふるさとプロボノ

#### 地域活性化対策(農山漁村関わり創出事業)

農林水産省 令和4年度農山漁村振興交付金事業



ふるさとプロボノは、地域を超えて課題を一緒に解決していく関係人口をいつでも募ることができる、「課題解決型地域交流プログラム」です。参加者は、農林水産業など地元のなりわいを体験しつつ、プロボノプロジェクトを通じて地域活動の基盤強化や地域活性を応援します。2022年度は、農林水産省の交付金を活用し、主に農山漁村エリアにおいて、社会参加プラットフォーム「GRANT」を通じたプロジェクトを推進しました。長野県高山村、島根県隠岐の島町、兵庫県丹波篠山市などで、地域団体に精通した地元コーディネーターの育成にも取り組みました。



ふるさとプロボノの活動ドキュメンタリー動画▶



## 地域単位での担い手マッチングを実現

地域団体の活動を活性化し、地域力を底上げするため、社会参加プラットフォーム「GRANT」を活用する自治体が増えています。行政や中間支援組織などの担当者が間に立ち、団体と支援者とのマッチングが成立してプロジェクトが完了するまで“コーディネーター”としてオンライン上で見届けられるようになっていきます。地域内外の支援者との出会いや協働をスムーズにする仕組みによって、地域の枠組みを超えた、新たな地域づくりの推進力となっています。

### プロボノMATSUDO

千葉県松戸市 福祉長寿部 地域包括ケア推進課

松戸市では、千葉大学と連携して都市型介護予防モデル「松戸プロジェクト」を推進しています。その一環として、プロボノワーカーの発掘と、支援を受けたい地域の「通いの場」や障害者就労支援施設などのマッチングをしており、2022年度は8団体、2017年度からの累計では延べ30以上の団体に向けて延べ約70名のプロボノワーカーが活動を行っています。

### 四日市プロボノプロジェクト

三重県四日市市 市民生活部 市民協働安全課

市民活動団体の抱える課題解決に向けて、四日市市職員の方々によるGRANTコーディネーターとしての活用を推進するため、コーディネーター向け研修や、市民活動団体向けワークショップ、市民向けイベントを実施しました。2022年度は、7団体8件のプロジェクトが立ち上がり、プロボノワーカーとともに、団体の課題解決に取り組みました。

### まるーむプロボノプロジェクト

滋賀県甲賀市 まちづくり活動センター「まるーむ」

市民と行政が互いに情報を共有し、協働により地域課題の解決に取り組むため、市民や甲賀市内を拠点に活動している市民活動団体を対象としたセミナーを開催しました。昨年より引き続きGRANTの活用促進に向けた情報共有や活動団体に向けた課題整理ワークショップを行い、多様化する地域課題の解決に取り組む団体・人材の育成を行いました。

### みなとパートナーズ

東京都港区 産業・地域振興支援部 地域振興課

課題を抱える区内町会・自治会、NPO及びボランティア団体などの地域活動団体と、社会参加に関心を持つビジネスパーソンをつなげて多様な主体による協働を促進するため、2022年度よりGRANTの活用を開始しました。初年度はコーディネーターとして区内の地域活動団体13団体、および、区民4名を対象にGRANT説明会を開催しました。



# メディア掲載・講演実績

## メディア掲載

新聞	2022年5月12日 朝日新聞(青森版)
雑誌・専門誌	2022年8月号 FRaU SDGs特集号 2022年7-8月号 JAICO 産業コンサルティング 2022年9月20日 織研新聞 2023年2月号 RMS Message vol.69 2023年3月号 倫風(実践倫理宏正会)
ウェブ	2022年9月13日 NewsPicks+d 2022年9月27日 NewsPicks+d
書籍	2023年3月27日発行 小学館 『マンガでわかる ちょこっと社会貢献』

▼小学館『マンガでわかる ちょこっと社会貢献』  
自分を活かせるプロボノ、始めてみませんか？  
2023年3月27日発行



## 講演実績

### 嵯峨 生馬

2022年4月16日	三菱電機インフォメーションシステムズ労働組合
2022年4月23日	早稲田大学
2022年5月28日	法政大学
2022年6月15日	全国子ども食堂支援センター・むすびえ
2022年6月18日	法政大学
2022年7月20日	公益社団法人国土緑化推進機構
2022年9月2日	さわやか福祉財団
2022年9月3日	横浜市泉区
2022年11月14日	東邦ガス労働組合
2022年11月15日	NPO法人森づくりフォーラム
2022年11月18日	ソーシャルビジネス研究会
2022年12月15日	南足柄市
2023年1月26日	NPO法人森づくりフォーラム
2023年2月4日	南足柄市
2023年3月6日	エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社

### 岡本 祥公子

2022年6月12日	日本NPO学会
2022年12月20日	特定非営利活動法人ブリッジフォースマイル

### 小林 智穂子

2022年5月16日	BNP PARIBAS
2022年5月24日	国立研究開発法人理化学研究所
2023年2月25日	横浜市磯子区
2023年3月11日	NPOサポートセンター

### 津田 詩織

2023年1月17日	株式会社日立製作所
------------	-----------

### 中川 寛允

2022年6月26日	街活性室株式会社
2023年2月12日	流山市民活動推進センター

### 上原 一紀

2022年11月13日	千葉県福祉ふれあいプラザ
-------------	--------------

### 阿部 孝

2022年12月17日	新宿NPO協働ネットワーク
-------------	---------------

### 太田 侑里

2023年2月15日	豊島区町会連合会
2023年3月12日	株式会社ダイナックス都市環境研究所

### 阿部孝 太田侑里

2023年2月16日	せんだい・みやぎNPOセンター
2023年3月16日	せんだい・みやぎNPOセンター

### 堀 久仁子

2022年12月12日	桃山学院大学
-------------	--------

### 榎野 吉晃

2022年8月24日	塩野義製薬株式会社
2023年3月29日	泉大津市民活動支援センター おづぶらざ



# 会計報告

サービスグラントの会計年度は9月末が決算期です。  
2021年度(2021年10月1日～2022年9月30日)の活動計算書は以下の通りです。

	科目	金額	小計・合計
A	経常収益		193,080,787
	1. 正会員受取会費		82,000
	2. 受取寄附金		687,565
	3. 事業収益		192,310,274
	サービスグラントの提供を通じたNPO支援事業	0	
	企業・行政等との連携によるプロボノプログラムの事業	188,075,448	
	プロボノプログラムの運営を担う人材育成事業	2,175,581	
	プロボノの普及・広報・社会的制度化に関する事業	2,059,245	
	4. 受取利息		948
B	経常費用		165,244,012
	1. 事業費		147,765,466
	給料手当	80,692,541	
	法定福利費	12,613,105	
	外注費	34,009,805	
	租税公課	10,850,260	
	旅費交通費	1,976,801	
	通信運搬費	1,607,623	
	会議費	1,524,219	
	地代家賃	1,369,392	
	減価償却費	1,088,022	
	その他経費	2,033,698	
	2. 管理費		17,478,546
	給料手当	5,888,800	
	法定福利費	779,700	
	支払手数料	1,385,143	
	地代家賃	4,987,343	
	支払報酬料	1,526,250	
	その他経費	2,911,310	
	当期経常増減額 【A】 - 【B】 …①		27,836,775
C	経常外収益		570,000
	雑収益	570,000	
D	経常外費用計		0
	当期経常外増減額 【C】 - 【D】 …②		570,000
	税引前当期正味財産増減額 ①+②…③		28,406,775
	法人税、住民税及び事業税…④		4,366,400
	前期繰越正味財産額…⑤		75,018,438
	次期繰越正味財産額 ③-④+⑤		99,058,813

# 代表メッセージ



認定NPO法人サービスグラント  
代表理事 嵯峨 生馬

サービスグラントは、とかく個別化・特殊化に流れやすいボランティアの世界に、普遍化・標準化の考え方を取り入れることで、多くの人が参加し、多くの団体のニーズに応えられるような仕組みづくりを推進してきました。2005年の活動開始以来、多くのエネルギーを、プロボノの仕組みを「整える」ことに注力してきたように思います。

ただ、コロナ禍に加え気候変動、戦争など社会・経済情勢が目まぐるしく動き、人々の意識や感覚も大きく変化する中では、これまでの蓄積が無になってしまうのではないか、というような危機感も、時折感じます。

「タイパ」が重視される時代においては、丁寧なプロセスより粗削りでもスピードこそが価値を持つかもしれません。プロジェクト期間は短い方が好まれるかもしれません。大きなインパクトを生もうと考えれば、勢いあるスタートアップを支援したい人も増えるかもしれません。

そうした社会の変化に対して、いかに処すべきか。ただ流されてしまうわけにはいかない一方で、変化に開かれた感性も必要です。特に、私たちのような「中間支援組織」は、いろいろな人たちの「間」に立つ存在だと思いがちです。しかし、私たちがNPOという運動体である限り、「最下流」であり「最上流」である、という両極端に動ける想像力とネットワークを維持していなければいけない組織だと思えます。

ここで「最下流」と書いたのは、こぼれ落ちるニーズを拾い続ける、という意味です。また「最上流」とは、そうしたニーズに対する解決策を誰よりも早く社会に提示できる立場にある、という意味です。NPOとは、本来、社会の課題やニーズを発見し、そこに何らかの働きかけを行うことで、人々にプラスの変化をもたらそうとする存在であるべきなのです。課題を発見する「気づく」力、課題解決の方策を「あみだす」「思考する」力、そして、多様な人々に声をかけながらそれぞれの力を引き出す「人を活かす」力。

これらは、サービスグラントの活動をずっと支えてきた基本的な働き方の価値観です。プロボノをはじめとして、さまざまな社会参加の機会を創出する挑戦を続けていく中で、私たちがつくる「仕組み」が社会の中で機能するためには、私たちの働き方の価値観を改めて思い起こし、それを日々の作業の中に落とし込み、真摯に実行していくしかないだろうと思います。

変化の激しい情勢だからこそ、突然の風に煽られないように、自分たちを見失わないように、かつ、自らに驕ることなく、着実に歩みを進めていきたいものだと思います。

## お知らせ | 2023年11-12月、グローバルプロボノサミットの日本初開催が決定

「GLOBAL PRO BONO NETWORK(グローバルプロボノネットワーク)」は、世界34カ国から、プロボノのコーディネーションに特化した60の中間支援組織が集まり、いまなお広がり続けています。2013年より開始した、「GLOBAL PRO BONO SUMMIT(グローバルプロボノサミット)」では、プロボノを主とした市民参加によるソーシャルセクターの支援や社会課題解決に関する各国の活動について情報を交換し、新たなモデルの開発に取り組んできました。ニューヨークでの初開催以降、2014年サンフランシスコ、2015年ベルリン、2016年シンガポール…と世界各国で幹事団体が主催してきました。

そのグローバル・プロボノネットワークが10年を迎え、再加速する2023年、いよいよ日本での初開催を決定しました。私たちは、プロボノが、世界中の多岐にわたる社会課題の解決において重要な役割を果たすものの一つであると信じ、その可能性を広げるため、開催に力を注ぎます。



## 事務局所在地

### 東京事務局(団体本部)

〒150-0002  
東京都渋谷区渋谷1-2-10  
TEL 03-6419-4021  
FAX 03-6419-3885

### 関西事務局

〒541-0047  
大阪市中央区淡路町2-5-16  
淡路町ビル8F  
TEL 06-6484-5810  
FAX 06-6484-5820

## 役員

### 理事

嵯峨 生馬(代表)  
生駒 芳子  
石原 英樹  
岡本 祥公子  
川淵 恵理子  
中村 天江

### 監事

池山 允浩

### 特別顧問

奥山 俊一

## スタッフ

(入職日順)

### 東京

小林 智穂子  
宮坂 奈々  
津田 詩織  
樫尾 直美  
北詰 佳子  
柴岡 久美子  
中川 寛允  
中島 裕子  
草野 杏子  
上原 一紀  
太田 侑里  
大森 純子  
栗原 彩乃  
篠崎 敦司  
谷口 有沙  
早野 和美  
新井 博子  
幸野 隆英  
西野 祐子  
吉田 彩音  
小泉 英治朗  
曾根 泰夫  
細川 美津子  
阿部 孝

### 関西

槇野 吉晃  
河井 靖子  
角永 圭司郎  
田中 綾香  
堀 久仁子  
永野 純一郎

## パートナー

(登録日順)

北場 彰  
須藤 恭太  
二階堂 光洋  
田中 洋  
山田 孝雄  
宮田 文  
安藤 嘉浩  
一色 義直  
川窪 千壽  
福澤 進  
貞光 九月  
岡林 典雄  
米倉 史人  
紺野 浩司  
三嶋 智史  
片野 裕規  
村瀬 匡範  
福原 敦士  
三塚 義治  
椎名 健治  
工藤 麻衣子  
山本 行道  
高見 悦子  
池田 祐理  
辰井 俊二  
中川 智子  
逸本 寛明  
大瀧 美紀  
酒井 佳代子  
富永 亜矢  
森下 真稔  
田中 克典  
立松 英樹  
松井 俊祐  
福永 圭佑  
藤本 典子

本年度のプロジェクト実施団体は以下よりご欄いただけます。



▲ チーム型支援



▲ GRANT



## 賛助会員のご案内

サービスグラントでは、多岐にわたる社会課題の解決に向けて、企業・行政・財団などの協働事業を通じて自団体の財政基盤を確保しながら、プロボノの取り組みを推進しています。同時に、社会的インパクトの創出を第一義に、財政的な裏付けがない場面においても、自主事業としてのプロボノプロジェクトの立ち上げ・運営に、今後も力を注ぎたいと考えています。自主事業には、「GRANT」やコーディネーター育成プログラムなどの新規開発と運営、チーム型支援（長期・短期チーム型支援、スコーパソンなど）などがあります。

こうした、サービスグラントの自主事業を支える仕組みが賛助会員です。サービスグラントによるプロボノを通じて社会課題解決に関わる人の輪を広げ、NPOなどソーシャルセクターに支援を提供し、よりよい社会を実現するため、ぜひみなさまの応援をお願いします。

賛助会費は、1口3,000円/年 から。  
お支払いは、クレジットカード・銀行振込で受け付けています。

なお、サービスグラントは、寄付者のみなさまが寄付金の税額控除を受けることができる「認定NPO法人」を取得しています。

▼詳しくは以下URL、もしくは右記QRコードよりご覧ください。  
<https://www.servicegrant.or.jp/about/supportingmember/>

